

患者さんを中心に考える医療実習

1ヶ月間の新潟市民病院総合診療科での実習は、患者さん中心の医療とはどういうものかということ強く意識させられるものでした。

新潟市民病院の総合診療科の外来には、他の病院で診断がつかず原因のはっきりしない患者さんというのが多くいらっしゃいます。そのような患者さんはなかなか原因がわからないことに不安を抱え、医療機関に対して不満を抱いている場合も少なからずあります。そのような場合で、特に診察や検査をして異常が見られないようなときの患者さんへの説明は、ここが異常ですと根拠を示すことができない分とても難しいものになります。精神的な要素が原因で体に不調をきたしている場合や加齢による変化に伴うもの、画像検査でもわからない小さな神経の障害など、可能性として考えられる病態について説明することになりますが、もし患者さんがその説明に納得できないとなってしまった場合、ドクターショッピングと言われる次から次へと患者さん自身の納得いくような診断が出るまで医療機関を渡り歩くという行動につながってしまいます。そのためこのような時には患者さんが納得できるように説明をする技術が必要になってきます。

市民病院で出会った先生方は患者さんがどんな症状に悩みどんなことを心配しているのかということに丁寧に耳を傾け、どうして他の病気は考えづらいのかということをお客様さんが納得できるように説明していました。そのように説明を受けた患者さんの中には初めてこんなに丁寧に説明や診察をしてもらったのは初めてだと感動していらっしゃる方もおられました。

診断の内容を患者さんに納得してもらえるように説明するスキルは、患者中心の医療の基本である患者さんの考えや気持ちに沿った医療をするために必須の技術であると実感しました。また今回このような貴重な体験から、将来目指していきべき医師像の輪郭がより明確なものになったと感じました。

今回このような機会を与えてくださった新潟市民病院総合診療科の先生方や新潟大学総合診療学講座の先生方には大変感謝しております。誠にありがとうございました。